

K.I.T.虎ノ門大学院 2017年度 学習支援計画書(シラバス)

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先: 虎ノ門事務室 [メールまたは電話])
 ※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名		科目コード	単位数	開講期	VOD閲覧
中国・韓国特許特論		Z 321	1 単位	3 学期	学内・学外
Chinese and Korean Patent Law					
科目分野		課程領域			
グローバル知的財産		知的財産マネジメント専門科目			
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー			
秦 玉公 康 應善	-	メールアポイントにて随時			

関連している科目(履修推奨科目)

米国特許実務特論	特許出願・審査特論	特許審判特論
欧州・アジア特許特論	米国特許出願特論	

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

中国(アジア)における特許権の確保は、ますます重要視されてきている。先進国がコスト削減を目的に行ってきた現地生産は、今や技術移転、市場の直接参与までに変化してきた。世界から注目されている中国(アジア)の知的財産に関する法律の基本体系、特許出願・中間処理・権利行使に関する実務、中国(アジア)の知的財産権保護の実情、法律整備の発展と変化、及び日本法との違いについて紹介するとともに、中国(アジア)へ進出するにあたり、知的財産における留意点とその保護の具体的な実務についても学ぶ。
 なお、本講では、日本への影響度、経済規模・市場規模等を考慮し、特に重要な中国と韓国の特許制度に関し、中国弁護士、韓国弁護士の資格を持つ講師により、日本語で解説を行う。

授業の概要

1. 韓国特許制度の特徴
2. 韓国特許制度と日本特許制度との違いについて
3. 中国の知的財産に関する法律の基本体系
4. 日本特許法と中国専利法の違い
5. 中国特許出願の実務
6. 中間処理について
7. 中国の審査及び審判制度について
8. 権利行使について
9. 中国で生まれた発明の取扱い

到達(修得)目標

主題と概要に記載した内容における(実務を含めた)知識の修得。

受講対象者

中国・韓国の知的財産に関する現状及び実務に関心のある方。

履修上の注意事項やアドバイス

各国の特許制度を理解するには日本の制度との比較するのが最も容易である。
 そのため、日本の特許制度について一通りの知識を事前に持っていることが望ましい。

※ 本科目は、集中開講または変則開講クラス(合計8コマ)で構成する。開講日時に注意すること。

※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 担当する教員は実務家教員とする。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域 (Y軸)	ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー	Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー	Z2: 独創力		X2: 構想	
Y3: グローバル法令・実務	Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y4: マネジメント	Z4: プレゼンテーション力		X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案	Z5: 変革推進力		X5: 変革	
Y6: 標準化	Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
	Z7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	
	Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
	Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

プラクティカム

イベント / ケース	教育技法	マテリアル / ツール
1		

評価の方法		
(総合評価項目と割合)	評価の要点	
出席・学習態度	30%	毎回、事務室より出席簿を準備する。また、授業態度では、授業内における積極的且つ的確な発言や質疑応答への評価を行う。 また、最終課題レポートから総合理解力について評価する。
課題レポート	40%	
総理解	30%	
合計	100%	

テキスト・参考図書など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	韓国特許実務入門第2版(経済産業調査会)	必要に応じて、各回資料を配布する。
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	適宜紹介予定	
参考URL		
適宜紹介予定		

コマ	学習内容	事前準備・課題	担当者	時間
1.2	中国の知的財産に関する法律の基本体系 日本特許法と中国専利法の違い		秦	180分
	中国特許出願と中間処理の実務 I			
	イベント 特になし			
3.4	中国の審査及び審判制度について 実務 II		秦	180分
	中国における技術契約に関する法規制及び実務上の留意点 実務 III			
	イベント 特になし			
5.6	中国における知的財産権の行使について (中国の独自の保護体制——行政ルートと司法ルートの手続き)		秦	180分
	知的財産マネジメントの留意点 中国企業の知的財産に関する現状 総理解の確認・まとめ			
	イベント 特になし			
7.8	韓国における特許出願の現況 韓国特許法の最近の改正動向 日韓特許法の相違及びそれに伴う出願、審査、審判、訴訟戦略(I)		康	180分
	日韓特許法の相違及びそれに伴う出願、審査、審判、訴訟戦略(II) 韓国における特許権侵害時の救済手段			
	イベント 特になし			

- ※ 講義日程は、学事ポータル上の講義日程表をご参照ください。
- ※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。
- ※ 講義収録は、特別講師を招く場合など、内容によっては収録できない場合があります。